

第2期八雲町総合計画の策定に向けた団体アンケート調査実施結果

1. 団体の活動や地域の状況に対してみられる八雲町自治基本条例による影響

「影響がみられる」という意見と、「影響がみられない（不十分等含む）」という意見が同程度の割合となっています。

「影響がみられる」の内容については、概ね良い影響についての意見が多くなっています。

「影響がみられない（不十分等含む）」の内容については、姿勢は伝わっているものの、具体的には目に見えないといった意見が多くなっています。

<主な意見>

影響がみられる	<ul style="list-style-type: none"> ○同条例が円滑な会の運営の後押しとなっている。 ○会員の意識は良く（上り）なって行動するようになってきた。 ○良い意味でも悪い意味でも移住者からも積極的にまちづくりに参加しようとする動きがみられるようになった。 ○協働のまちづくりへの気運は以前より増していると思える。 ○当町基本条例には私達団体としては大いに賛成同感で、今後も活動を継続したい。 ○保護者や地域住民の意見を本団体の活動に取り込み、まちとして作り上げる教育活動にむかっている。 ○「協働」という一つのテーマが浸透してきている。関係機関の支援体制や事業運営など、連携が取れている。 ○協働によるまちづくりに対しての意識の向上と啓蒙が図られている。
影響がみられない（不十分等含む）	<ul style="list-style-type: none"> ○開かれた町政を推進しているのは伝わってくるが、団体の意識改革につながっていない。また、町民の意見等がどうかされているかが実感出来ない。 ○個別の団体はそれぞれの目的に向け活動ができているが、他団体とのかかわりがまだ十分とはいえない。 ○行政はまだまだ「聞きます」という姿勢が強く「共に考え共に創り上げよう」という感じが足りない。 ○協働意識が見られてきたが、まだまだ低調。団体活動に関しては特段の変化は見られない。 ○元々、自主的な任意団体であり特に影響はありません。 ○町民に浸透していないように思います。 ○若人の集いの活動には、特段影響はないが、地域住民にとっては自分達自らがまちづくりに参画する意識や機会が増えよと思う。

2. 北海道新幹線新八雲駅(仮称)を地域振興に活用するためのアイデア

「駅舎の整備」「観光施設等の整備」「コンテンツ開発」「PR強化」に関わる意見が多くなっており、全体的に八雲町固有の良さを活かすこと、テーマを絞ることが重要であるという視点がうかがえます。

また、新幹線によって観光客が増える等、外部からの好影響に懐疑的な意見も比較的多く、住民や周辺自治体の居住者が活用しやすいことが重要であるという意見もみられます。

<主な意見>

<p style="text-align: center;">駅舎の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新駅内に観光案内所、お土産店など利用客がくつろげるスペースを設置 ○新駅舎のデザインに八雲町のシンボリック（例えばサイロ風）構図を入れる ○地域特産物、各地域のイベント等も写真入で展示 ○新八雲駅内に町の物産等、八雲町特有の店やセンターをオープン ○新八雲駅に多目的ホールを作る（町内住民の集まりやすい空間に） ○駅から直接スキー場（他の駅には見られない特性を作る） ○バターづくり、アイスづくりの体験や牛・馬・ヤギなどとのふれあいができる駅に
<p style="text-align: center;">観光施設等の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○音名川の魚道を整備（本来の鮭が遡上する川となり自然豊かな観光スポットとなる） ○駅前に観光牧場等 ○駅周辺に赤レンガのサイロや昔ながらの三角屋根の牛舎を建てて牛の放牧をする ○八雲中心街と新駅を中心にサイクリングロード、ジョギングロード、フラワーロード整備 ○食・自然・癒しをベースにまちづくり（八雲町を目的地とするように） ○新幹線駅から市街までを桜並木&花街道にするなど（八雲町のテーマに沿った準備） ○周辺観光用モデルコースの策定 ○駅周辺の施設整備（インフラ）、特産品アンテナショップの開設
<p style="text-align: center;">コンテンツ開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新幹線+新八雲駅(仮称)や八雲町に特化した商品の開発 ○名物づくり（地元食材のみ）、お菓子づくり（バター飴）・若者が集まる場所づくり ○日本海、太平洋二つの海の持つ特性を前面に出せるものを考える ○八雲町としての物産を活用して駅弁等を作って販売 ○定期的に新八雲駅(仮称)でイベント開催（リピーター確保が必要） ○パノラマパークなどを有効活用し、駅周辺での定期的なイベント開催
<p style="text-align: center;">PR強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「何もない（建物）」や「人」が売り、元気に活動している町というPR ○八雲町の自慢できる人、物を売りにPR ○観光スポットのPRと地元食材をいかした料理の充実 ○他駅にない特色を考え、八雲町をどのようにして売るのがかを協議、準備 ○インパクトの強いシンボルマークの製作 ○イメージソング、イメージキャラクター（ゆるキャラ）
<p style="text-align: center;">交通整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○八雲中心街と新駅とのアクセスや道路整備 ○道々相生、出雲線の延長線上（直線ルート）に新道を設置（市街地と新駅間の交通整備） ○八雲駅と新幹線八雲駅間のシャトルバスと合わせたコミュニティーバスの運行 ○道路や交通機関等のインフラ整備
<p style="text-align: center;">その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○町内外の各種事業者が事業展開できるシステムを構築（町民・周辺住民の利用が第一） ○企業誘致など雇用の面でも振興 ○新八雲駅(仮称)の徒歩圏内に住宅地を分譲（移住増加、新八雲駅の利用者の増加） ○外には期待できない、町民が親しみを持って愛せるようみんなで知恵を出し合う。 ○地道に八雲の宝ものを探していくことが大切

3. 八雲町のまちづくりにおける問題・課題、その解決方法

人口減少、少子高齢化を背景とした、「雇用・産業」「行財政運営」「子育て」についての意見が多くなっています。

また、「協働」に関する意見も多くなっており、住民がまちづくりを自分の問題として捉える意識の啓発とともに、参加しやすい状況をつくることが求められています。

<主な意見>

雇用・産業について	<ul style="list-style-type: none"> ○若い人が働ける場を確保するため、企業誘致を推進 ○若い人たちが定着できる働き場所 ○年寄り・若者・外国人の雇用を図る ○企業の誘致（ミルク・ホタテ・地熱等）高等教育施設の誘致（大学・研究所） ○酪農の町八雲の更なる農業振興 ○体験できる農業、漁業、林業を作り上げる ○音名川の魚道は重機による撤去作業等の魚道整備が必要 ○地元の商品を販売するのに、あまりにもマージンが高すぎるのも問題 ○周辺・後志管内からも買い物の圏内になっていることから、更なる商業施設の設置 ○地元特産品を、出来るだけ地元消費出来たらいい
協働について	<ul style="list-style-type: none"> ○役場主導の町づくりではなく、町民が自分で考えてやるというようにしむけることが必要 ○行政まかせの町民意識が強い。協働でまちづくりをすすめる意識改革が行政・町民に必要 ○より多くの町民の意見を採り入れることが肝要 ○次世代の育成のため若者が発言する場を設ける ○一人ひとりの存在や役割を明確にできる取り組みを団体間や町内会などで検討 ○参加する団体や人（町民）が身構えない環境づくりにも配慮が必要 ○町民と行政のパートナーシップ精神の育成 ○ことあるごとに町民参加を呼びかけて、自分は何が出来るかを考える町民指導が必要 ○地域の各組織のリーダーの和合
行財政運営について	<ul style="list-style-type: none"> ○使用されていない公共施設（国・道・町）、空き家の有効活用 ○民間団体などに公共施設の運営を委ねて行政のスリム化 ○町の予算配分の不公平さをなくすこと ○病院を利用して外部（外国人）の検診を行う ○総合病院は尚一層の接遇努力と経営努力が必要（民間への売却なども検討すべき） ○生活保護者の監視・指導を徹底 ○過去大きな行事が単発で終了したが、その理由の説明がなく、主催サイドの反省もない ○人材育成に力を入れていないことが一番大きな課題
子育てについて	<ul style="list-style-type: none"> ○八雲在中の子育て世代の意見をまちづくりに取り入れる（育児環境が他の市町村と比べ見劣りするため、子どもを持つ移住希望者が移住を諦めるという事例があった） ○将来を見据え子どもの育てやすい環境づくり ○幼児・小中学生くらいまでの医療費無料化 ○子どもをたくさん生んで育ててくれる家庭にもっと助成があってもいい ○育児用品や子供服等の買い物出来る場所が少ない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が出かけられる所が少ない（サロン等、高齢者が趣味などを目的に気軽に集まれる場） ○老人家庭への対策 ○町のアピールが控えめ、新たなご当地キャラなどの作成。 ○町内特産物の飲食が気軽に出来るような飲食店などが無い。また、知られていない。 ○合併後も町同士でわだかまりがある ○八雲地区・熊石地区の町民の方との交流をもう少し密にしたい ○牛糞の匂いを防ぐ観点から、メタンガスを利用したりサイクル開発 ○八雲の自然を案内する人等

4. 八雲町の今後のまちづくりに対する意見・要望

まちづくりのテーマやビジョンを明確にすることが重要という意見が多くなっており、そうしたテーマ等の設定にあたっては、住民が主体となることが求められています。

また、限られた予算のテーマにそった選択と集中や、そうしたまちづくりを支える人材の育成が必要という意見がみられます。

<主な意見>

まちづくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりへの基本構造（ビジョン）を確立することが先決 ○まちづくりに対するビジョンを明確にしてほしい。（優先順位・方向性） ○何を特徴とすべきかこの町の方向性を出すべき ○大学との連携、パノラマの利用活用といった、来てみたい、住みたい町（食・自然・利便性）、他にできない町づくり。 ○住みよい町・仕事のたくさんある町・高齢化でも心配のない町・子供に優しい町 ○「大自然、BBQの街八雲」などのキャッチコピーがほしい ○八雲らしさを大事に文化的、芸術的な点にも目を向けて自然を大事に第一次産業の発展
行財政運営について	<ul style="list-style-type: none"> ○人口の予測に見合った将来の財政計画 ○住民のコンセンサスを得ながら、限られた予算を特定の分野に集中 ○若い役場職員を地域の活動に積極的に参加させる ○町民全体が人付き合いやコミュニケーション（交流）が苦手、自治体職員はもっと外出して町民と交流し話を聴くべき ○まちづくりの基本は人づくりで、人材の育成が大切 ○自己評価を適宜行い、内面的な人格形成を図る。 ○守りではなく攻めの攻撃で若者達に夢と希望を見せて欲しい
協働について	<ul style="list-style-type: none"> ○町民が行政まかせでなく町は自分達がつくっていくというような、意識改革をするためのきっかけ作りが必要。 ○町民自身が学び、発言しそのことに責任を持つという仕組みを作りたい ○ボランティアスタッフの育成と理解 ○町民アイディアによるボトムアップを図る（町民→担当者→組織決定） ○地道にとりくんでいる団体を大切にして八雲のあらゆる宝ものをさがしていくことが大事
観光PR	<ul style="list-style-type: none"> ○新幹線駅が作られた時に桧山方面（熊石経由）からの利用促進等、乗降数向上策を考える事が大切 ○八雲で足を止めてくれるように八雲独自の物等を考えていく（町民が一体となれるもの、年寄り・若者が融合できるもの、案内役はボランティア） ○メディア関係を使うなどしてどんどん町をアピールするべき ○パノラマパーク開園イベントを実施しているので、反省点を生かしながら同等の物を継続
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○総合診療ではなく、たとえば消化器科、循環器科などの科を限定し名医を招いて質を高くする ○熊石国保病院の存続 ○国や道の出先機関が多いが、職員は転勤が多いため、公務員に過度な依存をしない地元の身の丈に合った事業にシフトすべき ○短期間で用事ができる様に公共施設の集約化 ○各町内毎ではなく全町民参加の町民運動会開催 ○青少年のスマホ利用について、勉学や健康に対する影響を調査、問題がある場合は先進地事例を参考にスマホ利用を制限する条例化が必要